

日本化粧品学会

第42回 教育セミナー プログラム

毛髪科学最前線 ～ ヘアケアから再生医療まで ～

ご挨拶

今回の教育セミナーでは毛を取りあげます。毛髪の状態により個人の印象は大きく変わります。人の外見を決める大きな要素であり、社会生活に大きな影響を与えます。毛に関する病気は想像以上に多く、その治療は難しいのが現状です。また、基礎研究の分野でも重要な位置を占めています。まさに日本化粧品学会がカバーする領域の中でもとても大切なテーマだと思います。

毛の基礎的な知識の再確認、脱毛、白髪はどうしておこるのか、その対策、再生医療、さらに非常に多くの毛髪製品が使用されるためにおこる皮膚障害、アピアランスケアと、1日で毛を系統的に学習することができる内容になっています。それぞれ、その分野のトップの方に講演をお願いしておりますので、わかりやすく解説して下さるはずですが、実は質問したいのだけれども、あまりに基本的なことで恥ずかしくて聞けないという内容から最新の研究の話まで、いろいろな段階、立場、職種の方にとり役に立つ内容となっております。多くの方のご来場をお待ちしております。

学術委員長 海老原全

開催日：2017年10月12日

会場：ヤクルトホール

*アクセスは最終ページの地図をご参照ください

〒105-8660 東京都港区東新橋1-1-19 (TEL.03-3574-7255)

開場：9:30 開演：10:00

参加費：会員 15,000円 (予約 13,000円)

非会員 20,000円 (予約 18,000円)

学生会員 1,000円 (当日のみ・要旨集代含・要学生証提示)

非会員学生 2,000円 (当日のみ・要旨集代含・要学生証提示)

* ご所属が賛助会員の場合、個人会員と同じく15,000円(事前予約13,000円)でご参加頂けます。

* 参加費には要旨集代が含まれています。

日本香粧品学会 第42回教育セミナー プログラム

10:00～10:05 開会挨拶 委員長 海老原 全 (慶應義塾大学)

10:05～10:55

1. 毛と毛包の解剖・毛髪異常 (AGA)

乾 重樹 (心齋橋いぬい皮フ科・大阪大学皮膚科)

10:55～11:45

2. 育毛薬剤の開発と評価方法 (これまでと今後)

岩瀬 徳郎 (東京工科大学 応用生物学部)

11:45～12:35

3. 毛のメラニン科学 (白髪化)

青木 仁美 (岐阜大学 大学院医学系研究科)

12:35～13:35 — 昼休み (参加費に弁当代は含まれません) —

13:35～14:35

4. 毛髪再生医療への取り組み

吉村 浩太郎 (自治医科大学 形成外科)

14:35～15:25

5. 美しい髪をめざして ～香粧品ができること～

江連 美佳子 (花王株式会社 研究開発第1セクター ヘアケア研究所)

15:25～15:45 — 休憩 —

15:45～16:35

6. ヘアケア品 (染毛剤、シャンプー、リンス) による皮膚障害

矢上 晶子 (藤田保健衛生大学)

16:35～17:25

7. アピアランスケア ～がん治療に伴う毛髪の変化と患者支援～

野澤 桂子 (国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター)

17:25～17:30 閉会挨拶 副委員長 松本 克夫 (ポーラ)

POINTS OF INTEREST!

毛と毛包の解剖・毛髪異常 (AGA)

[乾 重樹 先生]

毛髪・男性型脱毛症(AGA)についてはいろいろな迷信や都市伝説が広まっています。「1 か月でこんなに毛が増えた」「塗りだしたら、次の日から毛が生えだした」とか。本当でしょうか？毛髪の解剖や生理について基礎知識を踏まえずに諸問題を考えるところから迷いが生じてしまいます。迷信や都市伝説の解決という側面から科学的エビデンスを考究しつつ毛髪科学の基礎を確認したいと思います。

育毛薬剤の開発と評価方法 (これまでと今後)

[岩淵 徳郎 先生]

医薬部外品を含めた化粧品分野では動物実験廃止の流れを受け、新規薬剤や原料の開発が難しい時代を迎えている。そして、今後その流れは加速することが予想される。そうした中、育毛剤分野においては 46 種ほど存在する既存の医薬部外品有効成分の多くは十分に活用されていない状況にある。従って、これら既存有効成分の再評価を行い、古くて新しい薬剤の掘り起こしの重要性は今後増していくと思われる。本講では既存医薬部外品有効成分(育毛)の再評価例と、その評価方法について述べてみたい。

毛のメラニン科学 (白髪化)

[青木 仁美 先生]

毛髪の色素は毛包バルジ領域に存在する色素幹細胞が毛周期に応じて増殖分化することで供給される。白髪化は加齢に伴って進行性に生じる加齢現象で、バルジの色素幹細胞が失われるか色素を産生しないために生じる。白髪形成のメカニズムについて、現在までわかっている知見を、自身の研究とあわせて紹介し、白髪の予防法や改善方法に関しても共同研究での成果を交えて、お話ししようと思います。

毛髪再生医療への取り組み

[吉村 浩太郎 先生]

男性型脱毛症に対する再生医療には、①休止期毛包に成長期を誘導する、②成長期を延長する、③毛包を新生する、などのアプローチがある。③の細胞移植研究の歴史は長いですが、いまだに実用化に成功した例を見ない。脱毛症には、毛乳頭細胞の機能低下、毛包周囲の微小環境、ホルモンの影響、免疫反応など原因は複雑で不明の点も多い。増毛・発毛を実現するために、必要な考察と再生研究・治療の現状について報告する。

POINTS OF INTEREST!

美しい髪をめざして ～ 化粧品ができること ～ [江連 美佳子 先生]

ヘアカラーやヘアアイロンの使用が定着すると共に毛髪のダメージも定常化している。これに伴い、コンディショナーからトリートメントへと需要がシフトし、またアウトバストリートメントの使用率も向上している。その動向には、化粧品製剤のダメージケア効果への期待が伺われる。髪は女性を美しく見せる重要なポイント。ここでは、美しい髪の4要素[ツヤ・感触・形・動き]に着目し、日常の様々な負荷による毛髪構造のダメージ変化とそれに対応するケア技術をご紹介します。

ヘアケア品（染毛剤、シャンプー、リンス）による皮膚障害 [矢上 晶子 先生]

中高年の方にとって楽しく生活を送るためにはヘアカラーは欠かせないがかぶれを含めた皮膚障害は現在も後を絶たない。アナフィラキシーショックなどを生じることもあり、ヘアカラー後の“かぶれ”や“かゆみ”を放置せず、医療機関を受診する、もしくは、事前にセルフテストを実施するよう、広く啓発活動を行うことが望まれる。今回、ヘアケア製品による皮膚障害の実際や知っておきたいアレルギー、現在取り組んでいるセルフテストへの取り組みについて述べる。

アピアランスケア － がん治療に伴う毛髪の変化と患者支援 － [野澤 桂子 先生]

がんは、1981年より日本人の死因の第1位、生涯罹患率は男性で62%、女性で46%という国民的な病いである。しかし、がん治療に伴う外見変化の実態やそのケアの方法については、あまり知られていない。本セミナーでは、患者の苦痛度が最も高い脱毛をはじめとする毛髪の変化にフォーカスして、その予防法や治療法を含めた医療の現状を伝えるとともに、患者のQOL向上という視点から行われているアピアランスケアについて紹介する。

参加申込方法

日本化粧品学会 第42回教育セミナー

参加申込事前予約締切：2017年9月6日(水)

学会ホームページ(<http://www.jcss.jp/>)にて

- * 9月7日(木)以降は当日受付でお申込みください。
- * 予約申込で入金を確認された方には参加証及び要旨集を10月上旬に送付する予定です。
- * 一旦払い込まれた予約参加費は払い戻しできませんのでご注意ください。

連絡先：

日本化粧品学会 教育セミナー事務局
〒162-0801
東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター
TEL. 03-5389-6496
FAX. 03-5227-8632
E-mail. jcs-semi@bunken.co.jp

■ ヤクルトホールへのアクセスマップ



- JR 新橋駅「銀座口」より徒歩 3分
- 都営浅草線 新橋駅「汐留 1 番出口」より徒歩 1分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅 徒歩 3分
- 東京メトロ銀座線 新橋駅「2 番出口」より徒歩 2分
- 都営大江戸線 汐留駅 徒歩 5分